

人との出会いの中でことばの力を育てる

— 外国の人とのインタビュ―を通して —

片桐啓恵

はじめに

— 定時制高校の実態と学習上の問題点 —

一九九一年度、工業高校から定時制高校に転勤した。

「今までの自分の授業が通用しない学校に」「生徒一人一人に目の届く規模の学校に」という希望がやっととなった。

長崎市立長崎高校は夜間定時制だけの独立した高校で、一学年に普通科二クラス、商業科一クラスがある（十年前に定時制普通科の長崎市立高校と定時制商業科の長崎市立第二商業高校が合併して「長崎高校」となった。一九九一年度は全校約二七〇名でスタートしたが、一年間で七〇名程が退学していった。

本校は規制の少ないゆるやかな学校である。生徒たちは私服で登校する。長崎市内の中心部にあるため、便利ではあるが、途中の抜け出しも自由自在。ここでは「学校というオリ」の中に生徒を囲い込むことはできない。一本釣りのように一人一人の生徒と接し、ことばを交わし、最終的には彼または彼女が学校に出て来る気になるのを待つしか

ない。彼ら自身がどうしても学校に心を向けることができなければ去っていく。ただし、ここでは何回でもやり直すことができる。

かなり前から、定時制高校は「働く青年のための」学校ではなく、学力上・生活上の問題のために他の学校には行き場のなくなつた生徒たちが集まつてくる場になつている。殊に長崎県では数年前から高校入試が全日制、定時制別日程になつたため（定時制の入試は他のすべての高校合格発表が終わつた後の三月末、さらに二、三日後に再募集入試、続いて編・転入入試と、定時制の春休みは地獄の日程である）、無目的・無気力・劣等感の塊のような生徒がますます増加している。

「経済大国」といわれる現在の日本で、中卒で働かなければならない人の数は非常に少なくなつてはいるが、その一方で、貧富の差は確実に拡大しており、家庭の崩壊増大も伴つて、家庭基盤の弱さ―家族関係の崩壊―家庭経済力の弱さ―子どもの生活力・体力・学力の未発達という相関

はますます強まっているように思える。本校に来ていた生徒の多くは、学力不足故にいや応なしに本校の門をくぐったわけだが、このような背景を背負っている。従って、昼間働いている彼らの収入は、自分の学費と生活を支えるものとなる。家族の助けを頼れない者も多いのである。本来、生活力、気力、体力、知力の弱い生徒たちが、さらに困難な夜学の生活を強いられるのだから、これを続けていくのは大変なことである。

基本的生活力の弱さは生活面のだらしなさとして顕著に表れ、学習環境をつくるのが難しい。学校が特に荒れているわけでもないのに、比較的落ち着いていると言われる三年生ですら、教室は毎日ゴミだらけになる。教師は生活面での生徒の「お守り」で手一杯という状態になる。

学習面での最大の壁は、極度の能力差と徹底した自分中心主義である。

一九九一年度に私が担当した三年生の普通科は特に能力の差が大きかった。一クラス二十名程の中に、大学進学を目指す人（能力も非常に高く、学習意欲も極めて高い）から、知能障害に近い人までがいて、その幅の広がりの中に、一人一人がポツンポツンと点在している。教育困難校でよく言われる「低学力による授業成立の困難さ」というものではなくて、むしろ「無限大の複々式学級」とも言うべき様相を呈している。年齢も普通の高校生と同じ十七歳から二十歳前後、さらに四十台、五十台、最高齢の生徒さんは

七十五歳。ある人は中学から直接本校に入った。ある人は他の高校を中退して転校して来た。ある人は長い人生の苦勞の末、念願をかなえるために入学してきた。ある人は定時制の苦しさで耐えられず何度も中退という挫折をくり返し、それでも高卒をあきらめきれずに四度めの編入学をしてきた。

これだけ多様な人たちが共に学ぶ場—ある意味では、「学力」によって輪切りされた均質な生徒集団の方が異様であり、本校のような学習集団の方がむしろ自然なのかもしれない。ただし、それが、「共に学ぶ場」として機能し、「学習集団」になり得ていれば、である。

学習成立が困難な場合ほど、「教科指導こそが最大の生活指導である」ことを改めて痛感する。

出席だけをかきで高卒の資格を取ろうとする生徒たちに、学校を「学ぶ場・自己確立の場」としていかに認識させるか。「できない生徒のお守り」でお茶をにごすのではなく、確実に一人一人の力を伸ばす学習の内容と方法をいかに模索するか。「能力の高い」生徒の心を早期につかみ、きちんと伸ばす手だてをどうするか（能力の高い生徒ほど自己中心的傾向が極度に強く、この生徒たちが教師に見切りをつけると、取り返しがつかない）。これだけ生徒が多様でかつバラバラである時、さらに出席状況が極めて不安定な集団で、はたして「単元学習」は機能するのだろうか。

1 一年間のことばの学習の目標と流れ

一九九一年度は三年生三クラス(普通科)二、商業科一)と二年生一クラス(商業科)を担当したが、ここでは三年生の実践を報告する。普通科・国語II(3単位)一組(21名)二組(21名)、商業科・国語II(2単位)15名。

1学期 単元(自分の可能性をみつめよう)

「雑説」韓念(漢文)

- ・プリント学習の習慣づけ
- ・内容の構成(論の展開)を簡単な構造図にまとめる。
- ・内容に対して、自分の問題を引きつけて感想を書く。

「山月記」中島敦(小説)

- ・設問に答えながら内容を理解する。
- ・疑問点をもとにした質問カードに記入した数名の答えを読み比べることで、読みを深める。
- 「かもめのジョナサン」R・バック(小説)
- ・心理変化を構造図にまとめる。

2学期 単元(わたしたちと社会の問題)

「テムズの川霧が消えた」より 小林一喜(コラム集)

- ・新聞記事(特に、社会のできごと)に関する意見記事、コラム、投書など)を読みとる力をつける。
- ・読みとった内容を構造図にまとめる力をつける。
- ・読みとった内容に対して、自分の意見を述べる力を

つける。

単元(地球人としていろいろな国の人と生きる)
(新聞記事より)

・今、言わなければ(イーデス・ハンソンへのインタビュー)

・在日三世、韓国名で出ています

・日本代表で出たいが……バンデワレ、国籍の壁

・「帰らざる道」を選択、豪に咲かず個性の花

・外国人の日本語はなぜカタカナ表記

・たれんと模様―ダニエル・カール

・外国語で自分の意見を

・外国人労働者に厳しい仕事環境

・外国人の子供たちが急増、対応追いつかぬ小中学校

前の単元の発展として新聞記事を読みとる力、問題意識を深めて、自分の考えを述べる力をつける

(外国の人にインタビューしよう)

・インタビューのための質問カード

・インタビュー

3学期 単元(仕事と生き方を考えよう)

・仕事に関する本、一冊または二〜三冊(力に応じて)を読みぬき、読書記録をつける。

・自分が読んだ本の内容をB4一枚の構造図にまとめ、

三年生全体で一冊の冊子「私たちが紹介する『仕事と生き方の本』」をつくる。

2 人とつながる「原点」としてのことはを体験する

本校の場合、教師たちとことばを交わす生徒たちの物言いは、ひどく荒っぽい。「ていねい語」を全く使えない者も多い。逆に、粗野ではなく、ことば遣いだけはていねいに言っているが、精神的・情緒的問題を持つために、相手の反応を全くキャッチできない者、自分の言い分だけを一方的に主張する者も目につく。職員室で仕事をしながら聞いていると、あきれるようなことば遣いが毎日耳に飛び込んでくる。本校の教師たちは、それに対して実に辛抱強く接している。

どんなに荒々しくても、どんなに一方的な言い分であっても、それが今の彼らのことば＝自己表現なら、そこでまづつながるしかないのだ。この段階でことば遣いがどうこうと言ってみても仕方がない。つながりがいくらからかできた上で、話し方、ことば遣い、話す内容の吟味は次の段階の問題になつてくる。

ことばは精神的な活動と分かち難く結びついている。殊に他者と直接向き合う話しことばは、書きことばを用いるよりもっと動的なエナジーと勇気を必要とする。

能力の高い者もそうでない者も、本校の生徒たちは、どこかしら自信を持ってない点で一致している。既に何

らかの手痛い挫折を味わっているために、頑なに自己防衛し、他者と関わることに對して不器用である。そんな生徒たちと共有したい私自身の体験があった。

二年半程前に私はあるニュージールランド人と出会った。

結局その人物が「人生の同行者」となったのだが、出会った時、私は全く英語を話せなかった。聞き取りもできなかった。日本語がわからないニュージールランド人と英語がわからない日本人がなぜか知り合つて、辞書の単語を指さしながら懸命に考えを伝え合おうとする「会話」が始まった。

それから二年半たつ今、私の英会話は文法的に相変わらずかなりデタラメなのだが、ともかく様々な国の出身の人と話せるようになっていた。一番大きな変化は、ことばが通じないかもしれないということに対する自分の「心理的逃げ腰」がなくなつたことだ。わからないことの大きさよりも、わかることの小さな一部分でつながればまずスタートできるという「樂觀思考」への転換は、生きる姿勢そのものにまで影響してくる。そして、いろいろな国の人が友だちという生活が当たり前になつてしまった。

ことばを通じて未知の他者に接するという体験、私の場合、求めて英会話を学んだ訳ではなく、ある日全く突然に状況の変化が起きたために、自分自身の変化が新鮮で強烈だった。そして、この体験は、私自身の日本語の力いやでも再認識させし、相手のことばを受け取るのに全神経を集中し、自分の思いをことばにするのに全力を傾ける。

ことばが不足すれば必然的に手振り身振り、顔の表情、絵や図を総動員して表現する、という会話の原点に自分を立たせたのだった。

「通じない」「わからない」という大前提があるからこそ、必死でわかろうとする。その時、母語であれ片言の外国語であれ、自分のことばの力を総動員する他ない。そんな人と向き合うことばの原点を、生徒たちと共有したいと思つたのである。

3 外国の人にインタビュージュしよう

単元（地球人として

いろいろな国の人と生きる）

二学期の中間考査の後、三年生は単元（地球人としていろいろな国の人と生きる）に入った。この単元の柱は二つ。

- ① 日本と外国のさまざまな問題について知識を深め、自分の考えを表現できるようにすること。

- ② 外国の人に直接インタビュージュして、その考え方や表現力に学ぶこと。

①の柱のために、切り抜いてためておいた新聞記事（「在日外国人」の問題を中心に）を構成して、学習ノートをつくった（資料⑥～⑦参照）。②の柱のために、質問カードづくりから始めて、インタビュージュ・ノートを用意した（資料②～⑤参照）。ここでは、インタビュージュの学習を中心に報告する。

外国人ゲストとの交渉

外国人の人にインタビュージュするという学習を表現するためには、外国の人に来てもらわなければならない。それも、単元のねらいからして、一人ではなく複数、出身国の異なる人たちがゲストとして必要になる。ここで、「人生の同行者」と出会って以来飛躍的に広がった友人関係を最大限に活用する。ニュージールランド人のポール（わがつかい）、オーストラリア人のスコット、アメリカ人のメアリー、カナダ人のラヴィンダの四人が私の提案を快く受けてくれた。のみならず、私の計画に非常に興味を持ってくれた。

いずれも長崎市在住（短期・長期の違いはあれ）で、英語を教えることを現在の職としており（ラヴィンダは公立高校・中学のAET、他の三人は民間の英会話教室講師、ポールは長崎大学附属中のAETも経験中）、人柄、力量ともに信頼できる友人たちである。本当はもっと多様な国の人（特にアジア）をと思つたのだが、この実践の段階でそこまでの人脈がなかった。まずはできるところからと踏み切った。従つて、ゲストの顔ぶれから、インタビュージュの班をニュージールランド班、オーストラリア班、アメリカ班、カナダ班と分けることにした。

三年生合同の特別授業で

外国人ゲストに来てもらうたつた一度のチャンスを活かすために、三年生三クラスの合同学習とした。普通科と商業科では単位数が異なるが、出席率が悪いいため、生徒一人

一人の進度がバラバラで、クラス間の進度の違いはほとんど問題にならない。

二期前半ばまでに三年生全体で既に七名が退学、三クラス合同で全員出席しても五十一名、大規模校のクラス分ぐらいだからなんとかやれるだろうと、これまた難しさを目をつぶって踏み切った。

同じ三年生同士といつても、普通科と商業科は全く交流がなく、互いに顔も名まえも知らない。そんな生徒たちにとって、合同学習は貴重な場になると考えた。また、クラス内でも、普段は一斉学習ができないため、プリントによる個別学習を各自が黙々とやっていて、教師対生徒の一対一の学習になってしまっている。生徒同士がグループで、全体で学び合う場としても貴重な位置づけになる。

三クラス合同でやるためには、時間割のやりくりが必要になる。また、インタビュ学習は一時間(本校は45分授業)では無理なので、一校時→三校時の一日分を他の教科からもらって、三時間連続の国語・英語合同の時間にしてもらった。この特別授業のために、管理職はじめ職場の全面的な協力と支援をいただいた。

準備(1) 質問カードづくり(2→3h)

単元の初めに予告はしていたが、知識と問題意識を深めるための学習ノートの読みとり作業(資料⑥→⑦)がやはり個人差が大きく、インタビュの日程をなかなかたてられなかった。しかし、11月後半の文化祭前に実施して、文

化祭の展示につなげたかったので、学習ノートの読みとり作業を途中で中断して、インタビュ学習を入れ込むことにした。

「いよいよ本当に外国の人に来てもらってインタビュするよ」と宣言して、質問カードづくりに入る。(資料①)

Case 1 どんな簡単なことでもいいから、きいてみたいことを思いっくだけあげてみよう。

Case 2 相手の出身国別に質問したいことを考えよう。

これは特に「その日暮らし」に追われ、刹那主義に生きる傾向の強い生徒たちに、自分が出会う相手の国のイメージを具体的に思い描かせ、視野を広げさせるための作業。ここで生徒の知識の乏しさ故に豊かな質問項目が出てこないことが予測される。予め図書館で調べる時間を設けるべきなのだが、今回は時間と文献が十分にならないため、生徒たちの持っている力と私のいくらかのヒントで勝負することにした。班分けの希望をもとに、班(ゲストの国別)編成をする。

Case 3 自己紹介、簡単なレベルの質問、少し内容の深い質問とに分け(これはCase 1、2の回収後、私がA・Bの記号をつけて返した)、自分でできる生徒は英訳までつけて質問カード(案)をつくる。

この部分を英語の授業との連携でやりたかったのだが、日本語の方の質問づくりに時間がかかり(なに

しる定時制は時間がない！ 休み時間も放課後も始業前も使えないので、授業中の作業がすべて。やり残した分を課題にすることもできない、英語の先生には、生徒が個別に質問に行つた時に指導してもらう形で協力していただいた。

準備(2) インタビュー・ノートづくり

II インタビューのシナリオづくり(教師の作業)

生徒全員の質問カードを回収し、班毎に分け、誰がどの質問を書いたかというリストをつくる。それを見ながら、全員に質問の役割がつくように、一人一人の顔と力を思い浮かべながら、インタビュー・ノートをつくる。(資料②)⑤) これは、いわばインタビューのシナリオづくりで、ここが最大の山場である。

自分で質問カードを全く書けなかった者や、普段ほとんど出席しない生徒の分も、他の生徒が書いた質問の中から簡単なレベルのものを割り当てておく。この日だけふらりと出てくることも考えられるので(もちろん、授業の予定も知らずに)、そんな生徒も参加できるようにしておかなければならない。また逆に、誰が欠席するかわからないので(なにしろ出席率が70〜80%台)、内容の深い、ポイントになる質問は、出席が安定していて、ある程度信頼できる者に割り当てる。しかし、もちろん、本人が書いた質問を活かさないといけない。また、ポイントになる役割を割り当てることで、学習集団の核として力を伸ばすこともね

らう。

準備(3) インタビュー学習のすすめ方の説明

インタビュー本番の前日、三年全体を図書館に集めて、インタビュー・ノートを配り、翌日の学習の進め方を説明する。ここが第二の山場。

三クラスをバラしての班編成、班毎に内容の違うインタビュー・ノート、これを配るだけで時間がかかる。

話を集中して聞く力の弱い生徒たちに、どれだけ翌日の学習のすすめ方を理解させられるか。

インタビュー・ノートを持ち帰らせるのはとても不安である。普段のプリント保存の状態から考えて、翌日どれだけの生徒がきちんと持ってくるだろうか。普段はノートはおろか筆記具すら持つて来ない。配られたプリントは次々になくすという者も多い。それでも、このインタビュー・ノートは、自分の役割を確認し、質問の英語部分を練習しておくためにも、どうしても事前に渡しておかなければならない。

全員への説明を終えた後、各班二名ずつを指名して残ってもらった。これは、学習集団の核として育ててもらうために、司会・記録の係を依頼し、各班でのインタビューのすすめ方を十分に理解してもらうためである。全体で進める部分は私が進行できるが、班別インタビューの部分では私の目は行き届かない。インタビューのシナリオはあつても、誰が出席・欠席するか予想がつかないし、遅刻してく

る者もたくさんいる。そんな不安定な、教師ですら進行が難しい状況の司会を託すのである。

インタビュアー学習

当日は、図書館の机を動かし、不足分の椅子を運び入れ、班毎の録音テープを用意した。

(1時間め) 班別インタビュアー

(給食・休けい 二〇分)

(資料②)

(2時間め) 班別インタビュアーのつづき

(3時間め) 各班の司会者から、班別インタビュアーの様子

の報告(資料③)

合同インタビュアー(資料③～④)

予定では、1時間めだけ班別インタビュアー、2時間めから合同インタビュアーとディスカッションに入るつもりだった。しかし、班別インタビュアーが2時間めまでずれこんでしまった。これは生徒がもたついたりせいでもあるが、ゲストが自己紹介の段階などで予想以上に生徒たちからことばを引き出してくれたためでもある。

合同インタビュアーの時間が短くなったので、質問を二つだけにしぼって、ゲストそれぞれの意見をきいた。残念ながら時間が不足で、生徒と意見を交わすところまではいかなかった。

学習のまとめ(インタビュアー学習の感想を書く)

学習のまとめとして、インタビュアーの学習を書く作業は、当日は時間がなくなつたので、次の授業で書くことにした。

(資料⑤) 書きあげた感想を含めてインタビュアー・ノート全体を提出、この学習の状況ノートの記入のしかたを二期の成績評価に入れることは予告済み。二期期全体の学習が終わった段階で、他の学習プリントと共に一冊のノートとしてとじて製本して返してやる。

学習を終えて―ねらいと到達点、課題

生徒たちは実に真剣にこの学習に取り組んだ。まず驚いたことに、インタビュアー・ノートを忘れてきた者が一人もいなかった(普段の状態から考えると、これは奇跡に近い)。見学された他の先生方が驚くほど、出席者が一人残らず学習に参加し、ノートも懸命に記入した。

生徒たちには、インタビュアーする時に、まず日本語でハッキリ質問すること、そしてがんばって英語で言ってみることを要求した。これは、質問したい内容と意志を自分のことばでハッキリと表に出すこと、それは同時にゲストに対してだけではなく、同じ班のメンバーに対する表現でもあることを意識させたからである。

全員が自分の声でインタビュアーに参加すること。少し力のある人は、やや大きい集団の中で代表して、ハッキリ声を出して質問する力をつけること。学習集団の核となる力のある人は、班の全員を生かしながら進行し、短い時間の中で班の学習成果をまとめ、全体に報告する力をつけること。英語も使つての外国の人へのインタビュアーとはいえ、私が最も使つていたのはこの三段階の日本語を使つての

力であり、特に第三のねらいでは、核となった生徒たちは実に堂々と力を発揮していた。

外国人のゲストの力量、見識、表現力によって生徒たちが学んだことも大きい。日本語と英語の早口言葉(資料④)や英語のしりとりゲームなどで楽しむ部分もあった。ラヴィンダが日本における女性の自立と男性の意識変革の必要性を述べた時、他の男性ゲスト二人が共に大きな拍手を送ったことなど、生徒たちには新鮮な驚きだっただろう(資料⑤)。見学し、かつ班別インタビューで手伝ってくださった英語の先生が後で次のように感想を述べられた。「他の高校で普通行われているAETとの授業とは違って、本当に皆が側で向き合っていることばを交わしている雰囲気なんだか感動しました。」

ゲストたちもとても楽しかったようで、その後会った時も、あんな授業は次いつやるのか、やるんだしたら、また教えてほしいと言われ、準備が大変なのでそう度々はできないと答えなければ、本当にもっとゲストの幅を広げて、内容を深めてまたできればと考えている。私以上に管理職の方が「年一回、毎年できればいいね。なんとか定着できないだろうか」と言っている。

インタビュー以後、たまにボールやメアリーが私に用があつて学校に来た時など、生徒たちは友だちのようにあひさつしたり、片言のことばを交わしたりしている。

学習の成果は、感想にも表れている。特に、普段全く文

章の書けない生徒たちが、この時ばかりは数行なりとも感想をスラスラ書いた。自らが本当に参加した体験はことばを生むということだろうか。

課題もたくさんある。何より、出席率が悪かったこと。いつものことではあるが、それ以上に、「逃げたな？」と思える欠席がある。

今回の学習は実質的には、「インタビュー」とはいえない内容のものである。もつと内容を深めるためには、生徒たちの普段の基礎的な力を伸ばさなければならない。普段の学習では依然として、本当に一人一人を伸ばすところまでできていない。学習の個別化はできたとしても、その上に立ったことばを共有する学習の集団化は、さらに大きな課題である。

(長崎市立長崎高等学校教諭)

資料① インタビューのための質問カード step1~step3

Step 3		(23)	
日本語	英語	日本語	英語
自己紹介	My name is <u>Shinichi Oota</u> . I'm <u>37 years old</u> . I'm <u>single</u> . I live in <u>Osaka</u> .	自己紹介	My name is <u>Shinichi Oota</u> . I'm <u>37 years old</u> . I'm <u>single</u> . I live in <u>Osaka</u> .
職業	I'm a <u>teacher</u> .	職業	I'm a <u>teacher</u> .
家族	I have <u>one brother</u> and <u>one sister</u> .	家族	I have <u>one brother</u> and <u>one sister</u> .
趣味	I like <u>reading</u> and <u>traveling</u> .	趣味	I like <u>reading</u> and <u>traveling</u> .
質問	What is the name of your school? Where is it? What is the name of your university? Where is it? What is the name of your high school? Where is it? What is the name of your middle school? Where is it? What is the name of your elementary school? Where is it?	質問	What is the name of your school? Where is it? What is the name of your university? Where is it? What is the name of your high school? Where is it? What is the name of your middle school? Where is it? What is the name of your elementary school? Where is it?
お礼	Thank you very much.	お礼	Thank you very much.

(24)

① 先生の名前は何ですか？ (What is your teacher's name?)

② 先生が住んでいる国はどこですか？ (Which country does your teacher live in?)

③ 先生が住んでいる町はどこですか？ (Which town does your teacher live in?)

④ 先生が住んでいる家の電話番号は何ですか？ (What is your teacher's home phone number?)

⑤ 先生が住んでいる家の郵便番号は何ですか？ (What is your teacher's zip code?)

⑥ 先生が住んでいる家の住所はどこですか？ (What is your teacher's address?)

⑦ 先生が住んでいる家の名前は何ですか？ (What is your teacher's house name?)

⑧ 先生が住んでいる家の築年数は何年ですか？ (How long has your teacher's house been built?)

⑨ 先生が住んでいる家の広さは何坪ですか？ (How many tatami mats is your teacher's house?)

⑩ 先生が住んでいる家の色は何色ですか？ (What color is your teacher's house?)

⑪ 先生が住んでいる家の向きはどちらですか？ (Which way is your teacher's house facing?)

⑫ 先生が住んでいる家の周囲には何がありますか？ (What is around your teacher's house?)

⑬ 先生が住んでいる家の近くに何がありますか？ (What is near your teacher's house?)

⑭ 先生が住んでいる家の近くに何がありますか？ (What is near your teacher's house?)

⑮ 先生が住んでいる家の近くに何がありますか？ (What is near your teacher's house?)

⑯ 先生が住んでいる家の近くに何がありますか？ (What is near your teacher's house?)

⑰ 先生が住んでいる家の近くに何がありますか？ (What is near your teacher's house?)

⑱ 先生が住んでいる家の近くに何がありますか？ (What is near your teacher's house?)

⑲ 先生が住んでいる家の近くに何がありますか？ (What is near your teacher's house?)

⑳ 先生が住んでいる家の近くに何がありますか？ (What is near your teacher's house?)

Step 2

相手の人の質問に「はい」か「いいえ」で答えてください。

Step 3

相手の人の質問に「はい」か「いいえ」で答えてください。

Step 1 先生に「先生、お名前は何ですか？」と聞いてください。

Step 2 相手の人の質問に「はい」か「いいえ」で答えてください。

Step 3 相手の人の質問に「はい」か「いいえ」で答えてください。

3 全体で

各班からグループ別インタビューの様子を報告 (主な質問と答から印象に残ったものをメモする)

<p>《メアリーさん(アメリカ)》の班 今年 日本にやってきましたメアリーさんは、 カンファレンス出身で、英語を日本人はしゃべ ながら日本の文化を学んでいる 日本語は人の話しから学んでいる 日本人がカンファレンスに多い。</p>	<p>《ラウレンティアさん(カナダ)》の班 人々は、"かなから下"と質問は早そうカリ フトネグ、リヒリカヒヒをしてみました。</p>
<p>《ホルンさん(ニュージーランド)》の班 緊張したのがホルンさんがリクスアスエエエエに マリノアアと"ト"たうした。</p>	<p>《ホルンさん(オーストラリア)》の班</p>

4 全体で

質問とディスカッション

	日 本 語 で	英 語 で
水江	日本に来る前のイメージと来たらでは、どの様に違いましたか？	How is Japan different in your mind than before you come to Japan?
2班	日本についておもしろいこと、すごいと思ったことは何ですか？	What disappointed you about Japan? What is great about Japan?
水江	<p>物価が高い、他は山は高いけれど 治安が良い国。 視野が広い(ホテル、レストラン) 他国の人が多そう(?) 白のこころは好き。 ※表現は大切。 親切、母国に似てる。 外国人は、技術的なこと、 と思っている人が多い。</p>	

資料④ 合同インタビュー

<p>3 英 早口言葉を書きなさいか Let's try! (日本語の早口ことば) 生むま生こめ生たむご 竹垣に竹立てたけけ (英語の早口ことば) If a woodchuck could chuck wood How far would a woodchuck chuck wood. Betty bought a bit of bitter butter, The butter Betty bought was bitter.</p>	<p>Can you say "Hayakuchi-Kotoba"?</p>
<p>4 英 日本人の英語は上になってると思えますか。</p>	<p>Do you think Japanese people are getting better at English?</p>
<p>5 英 どの国の高校生活を書いてください。</p>	<p>Please tell me about the High-school life in your country.</p>
<p>6 英 日本若年人についてどう思いますか。 自分表現も自由に、個人的に、親やアパタチが行動を/人で、個性的人間。 たぶん 日本若者とアメリカ他国若者とでは文化や習慣や価値観は異なるが、意見と表現も多様。他国語にも。 たぶん 若くして家庭内でも多岐にわたる職業的に分業して生活する。 若い男性は皆その考えを主張したい。 男性は皆それをしていくべき!</p>	<p>What do you think about young Japanese people?</p>
<p>7 英 日本文化についてどう思いますか。生け花や茶道など。</p>	<p>What do you think about Japanese culture. "Ikebana", "Tea ceremony"?</p>

資料⑤ インタビューの感想

5 おわりに

今日の学習の感想とあいさつ。

今日のインタビュー・ディスカッションの学習で感じたこと・考えたことを書きとめよう。

④(ポール・スコット・メアリー・ラウینگ)とインタビュー	(3)月(3)週(西 純子)
-------------------------------	----------------

今日、特別授業のインタビューで私は外国と日本のいろんな違いの
違いということや、ポールさんやスコットさん、ラウینگさん、メアリーさん
に会いました。私はオーストラリアに行ったので、特にオーストラリアの
ことをいろいろと、まず世界地図の中でオーストラリアという国は、とて
ちかく、すぐ見つけられますが、スコットさんの住人について
いろいろポールさんや、メアリーさん、ラウینگさん、スコットさん
に話を聞きました。外国の人と日本人との考え方の違いについて驚かされ
ました。ラウینگさんに、日本人の住人たちがどう思っているか、
という質問をした時に、日本の女性はやりたいことをやる立場に
いるんだ、と話を聞かされたので、いいなというふうに思いました。スコット
さんとポールさんの方から話を聞かされた。日本人の、たぶん、いや
せられたらこのように思っていると思う。みんな一人一人が自分の意
見をわかっていて、それでいい。と話を聞かされた。私も自分の意思を表現
は、やりやすいように努力したいと思った。

5 おわりに

今日の学習の感想とあいさつ。

今日のインタビュー・ディスカッションの学習で感じたこと・考えたことを書きとめよう。

④小さな国際交流	(3)月(2)週(永江 和子)
----------	-----------------

今日は外国の人と共に語りあえてとても嬉しかったです。
皆、とて陽気で、何よりも自分の意見をはっきり語ってくれたこと
皆から見た日本人ということでは、やはり良い悪いの意見を言っ
てくれたことが特に勉強になりました。もし私なら良い事は言え
た悪い事は言えないと思う。
こうした形の国際交流が私にとっても好きで、出席して本当によかた
し。学年全体での勉強なんでもふりかかるといいなと思いました。
日本と全く異なった明るく自然の多い素敵な国々をその場から
想像することができ、何故か自然にかこたえたいななどとおかしく
考えが頭をよぎりました。勉強の為に自ら日本へ渡ってきた4人の
人達に改めて感動しました。そして私もこの人達のように自ら異国に渡って
行きたいと思うようになってほしい時間でした。

